

文化交流学科



世界とつながる、
地域とつながる

グローバル&ローカルな課題を解決する多文化協働の実践！

フィールドワークを地域活性化や観光振興につなげる！

充実した日本語教育を通じて文化の懸け橋となる人材を育成！

文化交流学科の学びは、キャンパスに収まりません。

海外や日本各地に足を運び、現地の自然や文化、人々の暮らしなどを、

五感を働かせて体験！その体験を学問的に理解し、

現地の魅力や特色を学生と教員との協働を通して発信する力を養います。

「日本各地」には、みなさんのふるさと、もちろん含まれます。

世界に旅立つ、地元にも根差す。自身のテーマを見つけ、

思う存分に納得がいくまで追究する。その場所が文化交流学科です。

「文化交流」は「ビビンバ」である。

みなさんは、韓国料理の「ビビンバ」はお好きですか？
ビビンバは、韓国語の発音では「ビビムパブ」と言い、「ビビム」とはかき混ぜること、「パブ」とはごはんのことです。ごはんの上にほうれんそうのナムルや牛肉や卵などを彩りよくのせ、コチュジャンを入れて、よくかき混ぜて食べます。よくかき混ぜないとビビンバの本当の美味しさを味わうことはできません。韓国にはビビンバに限らず、よくかき混ぜて食べる食文化があります。

文化交流も同じです。かき混ぜないビビンバが美味しくないように、文化もまた、多様な文化の混淆（ハイブリッド）、つまりビビンバ状態になって初めて、革新的で、創造的な文化（イノベーション）が生まれてくるのです。文化交流学科は「ビビンバ」。異質な文化が交わることによって、時代の先駆けとなる新しい価値観、創造性が生まれてくる場所。さあ、みなさんもいっしょに美味しいビビンバを味わいましょう！

文化交流学科主任・志賀市子

「世界」も「地元」もフィールドに、 現地で発見したテーマを徹底追究する

地域貢献演習Ⅰ、Ⅱ

ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」を対象として、地域の伝統文化と誇りへの理解を深める演習です。実際に祭り・行事の場へ出向き、観察や聞き書きを実践します。時には祭りに参加することもあります。学生自身の故郷と他所の文化を比較することで、自らの背景にある文化を理解できるようになります。



学芸員資格を取得しました！

元々博物館や美術館などに行くことが好きだったので、それに関連した資格を取りたいと思い勉強に励みました。座学で基本的な知識を身につけ、県内の博物館や美術館で見学実習を行ったり、外部講師の方による講義を受けました。普段目にすることができないものに触れることができ、とても新鮮でした。館園実習では、実際に展示品に触れたり、実習生だけで展示を企画したり、緊張感がありながらも学芸員の仕事をより身近に感じることができました。資格取得までの過程で身につけた知識や同志と過ごした時間は、学芸員としてだけでなく自分自身の成長にも繋がったと実感しています。

木村仁美さん（水戸第三高等学校出身）

日本語教員の資格を取得しました！

入学当初は日本語教育に夢中になるとは思っていませんでした。もともと言語や異文化に興味がありましたが、ある授業で日本語教育という私にとって未知で魅力的な分野に出会いました。実習を何度も重ねるうち、もっと勉強したいという思いが強まり、日本語教育能力検定試験への挑戦を決めました。決心した時期が遅く合格は厳しいと言われていましたが、周囲のみなさんのサポートで無事合格することが出来ました。丁寧に指導して下さいました先生方、先輩方、一緒に学んだ友人達に感謝しています。

藤田咲さん（常磐大学高等学校出身）

取得資格

- 中学校教諭一種（社会）
- 高等学校教諭一種（地理歴史）
- 日本語教育施設の教員資格
- 学校図書館司書教諭
- 学芸員
- 社会教育主事（任用）
- 社会福祉主事（任用）

